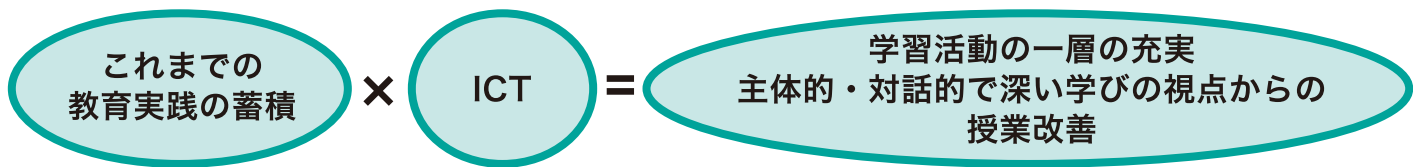


GIGAスクール構想

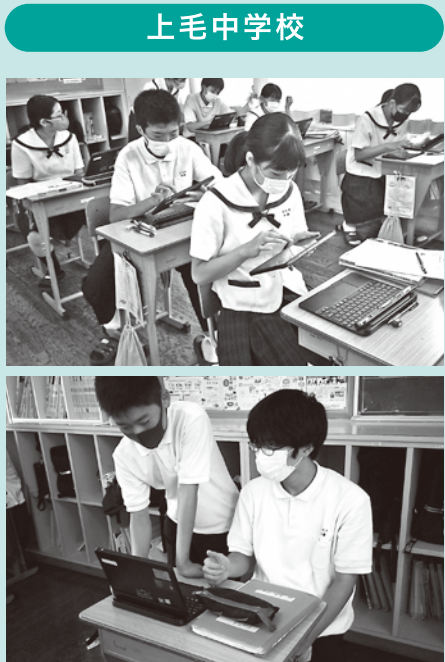
- 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。
- これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。



	「1人1台端末」ではない環境	学びの深化	「1人1台端末」の環境	学びの転換
一斉学習	教師が大型提示装置等を用いて説明し、子どもたちの興味関心意欲を高めることはできる	↓	● 教師は授業中でも一人一人の反応を把握できる → 子どもたち一人一人の反応を踏まえた、双方向型の一斉授業が可能に	↓
個別学習	全員が同時に同じ内容を学習する(一人一人の理解度等に応じた学びは困難)		● 各人が同時に別々の内容を学習 ● 個々人の学習履歴を記録 → 一人一人の教育的ニーズや、学習状況に応じた個別学習が可能	
協働学習	意見を発表する子どもに限られる		● 一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有 ● 子ども同士で双方向の意見交換が可能に → 各自の考えを即時に共有し、多様な意見にも即時に触れられる	

ICTの活用により充実する学習の例

- **調べ学習** 課題や目的に応じて、インターネットなどを用い、様々な情報を主体的に収集・整理・分析
- **遠隔教室** 大学・海外・専門家との連携、過疎地・離島の子どもたちが多様な考えに触れる機会、入院中の子どもと教室をつないだ学び
- **表現・制作** 推敲しながらの長文の作成や、写真・音声・動画等を用いた多様な資料・作品の制作
- **情報モラル教育** 実際に情報・情報技術を活用する場面(収集・発信など)が増えることにより、情報モラルを意識する機会の増加
(文部科学省リーフレット抜粋)



ICTを活用した授業

- ・インターネットでの情報収集
- ・自分の考えを整理
- ・友だちと意見の共有
- ・電子黒板での発表
- ・動きを撮影して自分たちで確認

学校教育ICT化の推進

GIGAスクール構想の実現に向けて



GIGAスクール構想のGIGAとは「Global and Innovation Gateway for All」の略で、全ての人にグローバルで革新的な入り口という意味であり、ICT(情報通信技術)を活用した新たな教育へシフトしていくことを表しています。

現代社会では仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場所でICTの活用が日常のものとなっています。このような中、社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げる場所である学校が、時代に取り残され、世界から遅れたままではいられません。

そこで、文部科学省は2019年にGIGAスクール構想を打ち出し、「1人1台ICT端末の調達」と「高速大容量の通信ネットワーク整備」を行うこととしました。

子どもたちが使うICT端末は、鉛筆やノートと並ぶ新しい文房具であり、令和の時代における学校のスタンダードとなります。これまでの日本の教育実践の蓄積の上に、最先端のICT教育を取り入れ、これまでの教育実践とICTのベストミックスを図っていくことにより、教師や子どもたちの力を最大限に引き出すものです。

本町におきましては、令和3年3月末までに「1人1台のICT端末の調達」と「高速大容量の通信ネットワーク整備」が完了しました。

現在、子どもたちは授業の中でICT端末を使うことで、操作スキルや活用上のルール及び情報モラルを学習しており、教職員はICT活用指導力の向上研修を行っています。教育委員会は、研修体系の確立やICT支援リーダーなどの中核教員の育成、情報教育講師の配置を行うと共に継続的にICT機器・通信環境の整備を行うことで、学校教育のICT化の推進を図っています。

今後は、ICTを積極的に活用しながら、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのないように、個別最適な学びと社会とつながる協働的な学びの実現を目指していきます。

● 問い合わせ先 教務課 学務係 TEL 72-3165(内線175)

特集

まちづくりの現場から

このコーナーは、九州一輝くまちづくりのため、上毛町第2次総合計画に掲げている事業のプロセスや課題などを紹介するものです。今月は、「学校教育ICT化の推進」の特集です。